

令和 8 年度 京都府 英語教育改善プラン

目標

小中の学びのつながりを意識しながら、
自分の考えや気持ちを自信をもって英語で伝えられる児童を育成する。

○授業における児童の言語活動の割合 R5 92.2%→R8 100%

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業内で言語活動を
50%以上行っている学
校の割合が増加した。

R4 85.6% → R5 92.2%
(小学校 5・6 年)

②「話すこと」を評価するた
めのパフォーマンステスト
を実施した学校の割合
が増加した。

R4 99.5% → R5 100%
(小学校 5・6 年)

①授業内容を理解できてい
ないと思っている児童の
割合が多い。

R6全国学力・学習状況調査より
「英語の授業の内容はよく分かる」
・そう思う：京都府42.1%
全国平均43.6%
→全国と比べて「よく分かる」割合
が少ない
・そう思わない：京都府8.4%
全国平均6.8%
→全国と比べて「分からない」割
合が多い

2. 要因分析

①多様な研修の積み重ねにより、
言語活動を通して指導している教
員が増加した成果が要因として考
えられる。

②研修等により、授業内で「話す活
動」が一定位置づけられていること
や、指導と評価の一体化が図られ
てきたことが要因として考えられる。

①学習内容が高度化する中で、難
しさを感じる児童が増えてきたことが
要因の 1 つと考えられる。

また、「そう思わない」割合が全国
平均と比べて高いことから、児童が
できないことへの不安を感じたり自
信が低下したりしていることが考えら
れる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①児童の実態把握と分析結果の共有・発信

- ☐ 「全国学力・学習状況調査」や「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の質問調査等の結果を非認知能力の観点からも分析する。
- ☐ 府内児童の特徴や効果的な活動事例について、共有・発信する。

①②①授業改善の提案

1. 自分の考えや気持ちを伝える場の設定

- ☐ 自分の考えをもつことが育まれている傾向にあることから、今後は、この力を英語で「話すこと」につなげる。
- 令和 7 年度全国学力・学習状況調査（国語・記述問題）の結果から、自分の考えを的確にもち、日本語で書いて表現する力が育まれている現状にある。

- ☐ 学んだ英語を「自然に」活用できる環境づくりを提案する。
- ☐ 外国語（活動）の時間に限らず、他教科や総合的な学習の時間、学校行事等においても、教員が意図的に「考えや思いを伝え合える場」を設定することも大切であることを周知する。

2. 外国語（活動）の先進的取組の共有による授業改善

- ☐ 府外の外国語（活動）の研究大会等で得られる言語活動の実践例を研究会等で発信し、各学校が実態に応じて、授業に活用・実践できるように提案する。

3. 授業改善の研修講座

- ☐ 『小中外国語教育講座～小中連携と I C T 活用を意識した授業づくり～』（京都府総合教育センター実施）
- ☐ 英語言語活動充実講座（授業 D X 研究会実施）

令和 8 年度 京都府 英語教育改善プラン

目標

ICTをツールとして活用し、
自分の思いや考えを自信をもって英語で発信(やり取り)できる生徒を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (R7: 55.6% → R8: 60%)

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が、前年度より向上した。

R6: 53.8% → R7 55.6%

②R5全国学力・学習状況調査より「書くこと」(記述式)の平均正答率が全国平均より高い。

14.9% (全国平均13.5%)

・「書くこと」(記述式)の平均無回答率が全国平均より低い。

20.1% (全国平均25.4%)

①即興で話す活動の実施状況は、改善の余地がある。

「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。」「と思う」割合：

R5 26.7% (全国平均26.2%)

R6 27.2% (全国平均28.2%)

②R5全国学力・学習状況調査より「話すこと」の平均正答率が他の領域より低い。話12%

(聞57.5%、読51.8%、書24.5%)

・「話すこと」の平均無回答率が全国平均より若干高い。

19.6% (全国平均19.4%)

2. 要因分析

①教員に対して、指導方法の多様な研修を継続的に実施してきた成果として、生徒の学びに変化が見られ、そのことが生徒の英語力の向上につながっていると考えられる。

②自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が、英語学習の中で多く行われていたことが要因として考えられる。

①文法や正確さを重視していることや、即興的な活動に対する教員の経験の差が、実践への踏み出しを難しくしていたと考えられる。

②「話すこと」の指導方法や実践の共有がまだ十分ではないことが考えられる。無回答率については、生徒の英語を話すことに対する自信のなさが要因の1つとして考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①各調査の分析結果の共有・発信

□「全国学力・学習状況調査」や「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」等の結果を、非認知能力の観点も踏まえて分析し、生徒の強みや課題、特徴について研究会等で共有・発信する。

②②「書くこと」と「話すこと」をつなげる言語活動の提案

□「書くこと」で身に付けた表現力を効果的に「話すこと」へとつなげていく活動を提案する。

令和5年度全国学力・学習状況調査（国語・英語の記述問題）の結果から、自分の考えを的確にもち、それを日本語や英語で書いて表現する力が育まれている現状にある。

①①②授業改善（話すこと）の提案

1. 『外国語科の学びを深める「ICT×探究的な学び」実証研究事業』

□中学校における英語4技能5領域の総合的な育成を図り、生徒が自信をもって英語を使い、実際に話すことができる力を伸ばすことを目的とする。
□使用可能なA I 英語学習アプリや英語学習ソフト等の情報を広く発信し、個々の習熟度に応じた発話練習や表現の定着を目指す。
□国内外の学校や地域の人々と英語でやり取りを行う経験へとつなげる。

2. 授業改善の研修講座

□『小中外国語教育講座～小中連携とICT活用を意識した授業づくり～』（京都府総合教育センター実施）
□『中高外国語科教育講座～パフォーマンステストの充実と生成A I・ICTの活用～』（京都府総合教育センター実施）
□英語言語活動充実講座（授業DX研究会実施）

令和 8 年度 京都府 英語教育改善プラン

A I や I C T を効果的に活用しながら、4 技能 5 領域を統合した言語活動を実践できる教員を育成し、目標・指導・評価の一体化を図ることで、各校の英語教育を長期的かつ総合的に充実させる。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7: A2以上55.6%、B1以上19.6% ⇒R8：A2以上57.5%、B1以上20%）

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR B1レベル 相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合について、増加がみられた。
(R6:17.9%⇒R7:19.6%)

②授業内外における、学校での英語学習のためのA I の活用状況の「活用している」の高校の回答率は8割近くまで到達した。
(R7 79.5%)

①英語担当教員の授業における英語使用状況について、改善の余地が見られた。
(R6:16.9%⇒R7:14.2%)

②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合について、ほぼ横ばいであった。
(R6:78.4%⇒R7:78.2%)

2. 要因分析

①全学科において、英語の授業以外の教育活動（例：部活動、スピーチ大会等に向けた指導等）での生徒とALTの交流状況が増加したことが要因と考える。
(R6:60.4%⇒R7:75.5%)

②京都府が策定した生成A I 活用のガイドラインなどを通して、生成A I の活用への関心度及び活用意識が高まっていると考える。

①実際のコミュニケーション場面を英語で指導することに、多くの教員が困難を感じていることが要因と考える。

②CEFR B2/C1レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合について、C1以上の層は僅かに増加したが、B2相当の層が減少した。
C1以上：（R6 83名⇒ R7 86名）
B2相当：（R6 197名⇒ R7 187名）

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①② **新たな事業を通じて、より質の高い英語学習環境を提供**
- ☐ 全府立高校1年生に生成A I 英語アプリを導入する「英会話どこでもレッスン事業」により、グローバル社会で通用する実践的な英会話能力を育成する。
 - ☐ 「京の高校生『海外探Q留学』応援事業」により、生徒たちの主体的な学びや海外での探究活動を支援し、創造性豊かなグローバル人材を育成する。
- ①② **英語教育推進教員育成研修の実施（R5～継続）**
- ☐ 有識者による体系的な指導のもと、目標から逆算した単元構想や授業づくりを推進する。
 - ☐ 研究授業と指導主事等による助言を通じ、生徒の言語活動を充実させる授業づくりの力を向上させる。参加者は目標と指導と評価の一体化や言語活動を中心とした英語による授業実践についての理解を深める。
 - ☐ パフォーマンステストの実践を通して、生徒の英語力向上、並びに教員の指導改善（英語使用状況含む）に役立てる。
 - ☐ 各校でパフォーマンステストの構築を推進し、その成果を事例集として高校教育課ホームページに掲載する。
- ①② **その他**
- ☐ 本府の教育D X 推進課、京都府総合教育センター、京都府立英語教育研究会と連携し、教員研修等の受講を促すとともに、生成A I の効果的な利活用に関する知見を深め、授業での活用に係る実践力の向上を図る。
 - ☐ Teamsを活用して、教員間の情報共有や交流・相談を促進する。あわせて、「小・中・高等学校教員を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度」、府内のI C Tを利活用した授業実践事例等の情報を提供し、教員たちの不断の授業改善と英語力向上を支援する。
 - ☐ 従来の留学事業に加え、国内でも留学への興味・関心を高めることができる「国内グローバル留学事業」を推進する。



京都府教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		47.5	51	52.5	55.7	55	55.6	57.5		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		18	13.5	19	17.9	19.5	19.6	20		20.5	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	31.9	100	34.6	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	26.3	100	29.1	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	61.5	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		62.5	74	75	78.4	77.5	78.2	80		82.5	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	13.1	100	16.9	100	14.2	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	43.2	50	53.8	60	55.6	60		65	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	58.3	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	99	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	96.9	100		100		100		100	
		公表（％）	100	55.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	59.4	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		53	49.4	55	48.3	57	68.2	75		80	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	52.8	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	80.8	100		100		100		100	
		公表（％）	100	35.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	67.2	100		100		100		100	